

本委員会では、商工業をめぐる環境だけでなく、柏市のまちづくり全般に関しても議論し、整理しました。一市民の目線で、これからの柏に求める視点、取り組んでもらいたいテーマを示しています。

	「ひと」が動く 交通／公共空間	「ひと」を育てる 教育／子育て ／商業（スタートアップ）	「ひと」を魅せる 情報発信／ブランディング 文化・芸術／観光	「ひと」を守る 防災／交通安全／治安維持 医療／食／環境
スローガン【1】 「ひと」と「ひと」を、 つなぐ		<ul style="list-style-type: none"> □多様な教育人材の確保 地域と連携し、教員の負担軽減を補う仕掛け。 □子育てコミュニティの構築 子育て世代同士の交流機会を創出し、助け合える関係性に。 □事業者ネットワーク 小売業、スモールビジネスの支援プラットフォーム強化。 		<ul style="list-style-type: none"> □地域の目を活かした安全 市民と連携した地域の危険箇所の把握。 □自然災害への対応 コミュニティを巻き込んだ安心・安全な住環境の構築。 □耕作放棄地・里山の対策 所有者だけでなく、行政・地域が関わり保全する仕組み。
スローガン【2】 「まち」と「ひと」を、 つなぐ	<ul style="list-style-type: none"> □柏駅前の公共空間整備 変則的な一方通行や、複雑なロータリー等、交通環境を再整備。広場等の滞在できる空間の整備。 □玄関口・柏駅の機能強化 駅利用者をまちに誘う仕掛け。必要な施設・機能の強化。 	<ul style="list-style-type: none"> □子育て環境の整備 TeToTeを最大限に活かし、子育て支援サービスを充実。 □教育フィールドとして活用 STEAM教育、キャリア教育を公教育に積極的に導入。 □若者の居場所創出 不登校・家出等、若者の多様な受け皿を用意。 	<ul style="list-style-type: none"> □各エリアの情報共有 エリア間で事業者の交流の機会創出。情報発信媒体の整備。 □文化発信拠点の整備 文化ホールや美術展示施設等の拠点整備。 □インバウンド・コンテンツ 宿泊施設の整備。柏市内で消費させるコンテンツの強化。 	<ul style="list-style-type: none"> □柏の葉公園の再整備 地域の防災拠点としての強化を千葉県に要請。 □高齢化に対応した地域医療 初期発見に力を入れた医療体制の推進。 □空き家・空き地の対策 所有者だけでなく、行政・地域が関わり管理する仕組み。
スローガン【3】 「まち」と「まち」を、 つなぐ	<ul style="list-style-type: none"> □柏セントラルへのアクセス 柏の葉と柏セントラルをつなぐ交通手段の検討。 □手賀沼へのアクセス 柏駅から手賀沼への遊歩道、北柏駅から道の駅へのバス等、手賀沼をより身近に楽しめる環境の構築。 	<ul style="list-style-type: none"> □エリア連携による教育 手賀沼での農業体験、柏駅での起業体験等、各エリアで提供できるコンテンツを組み込んだ良質な教育プログラム。 □地域課題解決カリキュラム 地域課題を発見し、実際に取り組む実践型の教育カリキュラムを市内全域で展開。 	<ul style="list-style-type: none"> □エリア連携による魅力創出 柏の葉の先端技術や知の蓄積。手賀沼の農や水辺、自然体験。柏セントラルの食や小売。エリアごとの魅力を掛け合わせる、交流させることで、新たなビジネスの創出、多様な人材育成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> □最先端医療の展開 柏の葉の先端医療や、豊四季台団地の在宅医療のノウハウを、他のエリアにも横展開。 □公設市場の活性化 市民の食、柏の飲食店を支える公設市場を、より魅力的な施設となるよう、整備・改善。
スローガン【4】 「柏」と「世界」を、 つなぐ		<ul style="list-style-type: none"> □柏の葉の先進性のPR 柏の葉で取り組まれている教育的なチャレンジを、対外的にも発信。 □他都市への研修・人材派遣 先進的な取り組みを行っている地域に人材を送り込み、技術やノウハウを学び、柏に活かしていく仕組み。 	<ul style="list-style-type: none"> □対外的PRの強化 柏を対外的にPRしていく専門機関や部署を組織化。インバウンドを意識した発信。 □全国クラスのコンテンツ スポーツ、グルメ等のコンテンツ強化。大規模イベント・企画を受け入れられる体制（会場・人材）の構築。 	

柏市第6次総合計画への提言書

柏商工会議所・提言委員会
2024年4月

「つづくを、つなぐ。」柏に向けて

加速する少子高齢化、突如訪れたコロナ禍、進化し続けるIT技術。産業を取り巻く環境は大きく変わり続けています。そうした社会の変化に対して柔軟に、先を見据えて精力的に、そして覚悟を持って大胆に、歩みを止めずに足を動かしていく姿が、我々商工業者に求められています。「柏市第6次総合計画」策定にあたり、これからの柏の産業に必要な視点・取り組みを、本委員会では議論・整理しました。4つのスローガンを掲げ、そこから具体的に求めたい2つのゴール、それを実現するための5つの取り組みを提言します。これまで発展してきた柏の産業をつづけていくために、時代に合わせた新たな形・姿を次世代につないでいくために、我々商工業者の想いと姿勢を、ここに記しました。行政と商工業者が力を合わせて取り組むことで、新たな柏の姿が描かれていくことを期待しています。

現状と課題

課題①

これからの柏を支えていくチャレンジできる人材の育成が重要ではないか？
▷ 暮らしに根付いたスモールビジネスを育てていく。学校教育以外の学びの場を築いていく。

関連分野 **商業** **教育**

課題②

今ある空間・素材を最大限活用し、新たな魅力をつくるべきではないか？
▷ 活用できる種地を丁寧にデザインしていく。手賀沼の水辺等の自然環境を活かして価値を高める。

関連分野 **商業** **環境** **公共空間**

課題③

市内の各エリア、それぞれ個性があるが、分断されているのではないか？
▷ 人の移動、産業的な役割を含め、各エリアをつないでいく取り組み・仕掛けを構築していく。

関連分野 **交通** **教育** **商業** **農業**

課題④

「柏」というまちの、対外的なPR・情報発信が弱いのではないか？
▷ 今ある魅力・コンテンツを見直し、強化し、発信していく。さらには、新たな魅力を創出していく。

関連分野 **観光** **スポーツ** **文化** **教育**

スローガン／方針

【1】「ひと」と「ひと」を、つなぐ。

これからの柏を支えるのは「人」であり、そのためのコミュニティやネットワークを紡いでいく。住んでいる住民同志のつながり、柏でチャレンジする事業者同士のつながりを作り、地域に活力を生み出していく。

【2】「まち」と「ひと」を、つなぐ。

柏に住む人、訪れた人の、居場所をつくる。これからの時代に求められるサービスを、しかるべき場所に用意し、住みやすいまちにしていく。これからの柏を支える「ひと」が育つ機会・場所を、積極的に「まち」の中につくっていく必要がある。

【3】「まち」と「まち」を、つなぐ。

商業地・柏セントラル、先端都市・柏の葉、豊かな水辺・手賀沼。それぞれのエリアの個性や特徴を活かし、エリア同士を結ぶことで、新たな価値を生み出していく。個性ある「まち」を掛け合わせ、柏ならではのライフスタイルを構築する。

【4】「柏」と「世界」を、つなぐ。

これからの都市間競争の中で、柏というまちを未来につないでいくために、柏の魅力を広く発信していく。柏ならではの、柏だからこそそのコンテンツを育て、磨き上げ、強みにしていく必要がある。「住む」「働く」「育つ」ことにおいて、選ばれるまちに。

ゴール／目標

ゴール②

「人が育つ」柏に

多様な人材が育つ環境の構築を求める。特に中心市街地では、新たなビジネスにチャレンジできる場の創出を望む。人材育成から、新たなコンテンツが生まれていく。

【提言(1)】
柏駅前にチャレンジの場を
【提言(5)】
オール柏の教育プログラムを

ゴール①

新たな「人の流れ」を

対外的に「柏」を発信し、市外から人を呼び込む取り組みを求める。また、市内各エリアを結ぶ交通の改善も重要で、市内外の新たな「人の流れ」が、産業を支える土台となる。

【提言(1)】
柏駅前にチャレンジの場を
【提言(2)】
市役所周辺に文化的コンテンツを
【提言(3)】
手賀沼湖畔に観光リゾートを
【提言(4)】
柏～柏の葉間に新交通システムを



提言(4) 柏～柏の葉間に新交通システムを!

柏～柏の葉をスムーズに移動できる交通網を要望します。国道16号線のバス優先レーンの設置、柏の葉で実証実験中の自動運転の導入等により、**柏版BRTの構築**を求めます。柏の葉が有する最先端技術に、柏駅周辺の事業者がアクセスできる環境、市民がより身近に感じる距離感をつくること、そして手賀沼も含めて、**市内での「人の流れ」を活性化**させていくことが重要です。



柏の葉キャンパス駅

国道16号

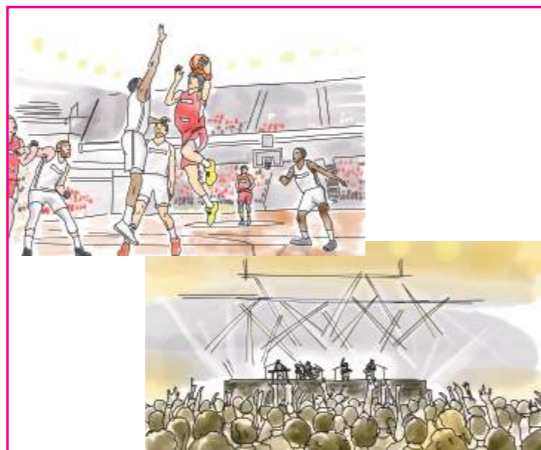
提言(1) 柏駅前にチャレンジの場を!

これから大きく姿を変えていく柏駅前には、**暮らしを支える機能の充実**を望みます。インフォメーションセンター、子育て支援センターに加え、他の行政サービスの柏駅前への移転も要望します。特に、低リスクで起業・出店できるインキュベーション施設やチャレンジショップの創出は重要で、**若い事業者がチャレンジできるまち**であり続けることが、担い手の育成につながります。



提言(2) 市役所周辺に文化的コンテンツを!

行政サービスの柏駅前への移転を機に、市役所周辺にはコンサートホールや劇場、アリーナ等の、**エンターテインメント施設の整備**を求めます。柏が文化の発信拠点となり、**集客力のある都市として成長していく**姿を望みます。また、市役所周辺は、柏駅と手賀沼をつなぐエリアとしても重要で、コンテンツの強化、魅力的な滞在空間の創出により、**手賀沼へと人を流す役割**を果たします。



ゴール① 新たな「人の流れ」を



これからの柏の産業を支える土台として、**新たな人の流れ(人を呼び込む魅力)**が必要だと考えています。1つは、**市外からの流入**。柏駅周辺に、文化的コンテンツ、エンタメ性の高い施設を用意することで、「わざわざ」訪れる柏、を育てていくべきです。また、手賀沼という資源を活かして、観光客の入れ込み、インバウンド消費の向上にもつなげていくことも求めます。もう1つは、市内の各エリア間での人の往来です。柏の葉～柏セントラル～手賀沼、**市内の資源をつなげる**ことで、市民が活発に動き、消費が喚起される姿を望みます。

ゴール② 「人が育つ」柏に



柏の産業の発展を支える、**人材育成**に力を入れていくべきです。1つ目は、探究型学習やアクティブラーニングの積極的な推進。**分野横断的な質の高い教育**の実践が重要です。市内の大学・教育機関・専門的事業者と連携した先駆的な取り組みを期待します。2つ目は、**女性の活躍**の舞台をつくること。子育て中・子育て後の女性が持つ多様なスキル・経験を、しっかり活かす仕組みが必要です。ママさんのセカンドキャリア支援の体制構築を求めます。3つ目は、**グローバル人材**の活用。海外の方も含めて多様な人材を確保し、産業を支える基盤を構築することで、労働力不足という逆境に立ち向かっていきます。

提言(3) 手賀沼湖畔に観光リゾートを!

柏ふるさと公園一帯を整備し(体育館、文化会館、保健所等の機能移転)、観光リゾート化を推進。水と緑に囲まれた**魅力的な「レイクサイド」**としてブランディングをし、市内外から人を呼び込む取り組みを望みます。都心から最も近い天然湖沼として、水辺のアクティビティや農業体験等のコンテンツを強化し、**週末にゆっくり滞在できる身近なリゾート地**としての価値向上を求めます。



提言(5) オール柏の教育プログラムを!

柏の葉での先端施設見学、手賀沼での農業体験、柏セントラルでの商業体験等、各エリアの特徴を活かした**分野横断型の教育プログラム**を求めます。行政、教育機関、専門的事業者が共同でプログラムを運営することで、**先進的なキャリア教育**の実現・実践が可能となります。柏で育ち、柏を愛する若者が、柏に戻ってきて、住み・働き・子育てする。そのためには、質の高い公教育が必要です。



柏の産業を支えるための、「2つのゴール」・「5つの提言」

柏で生きていく商工業者として、目指すべき2つの姿(ゴール)と、それを体現する5つの取り組み(提言)を求めます。柏駅は、乗降客数が約33万人/日、商圏人口約327万人と、恵まれた環境ですが、それに甘んじることなく、新たな「人の流れ」をつくっていく必要があります。**市外から人を呼び込めるコンテンツ**を創出・強化し、**事業者がチャレンジし続けられる環境**を構築していくことが重要です。合わせて、市内の**交通アクセスの改善**により、エリア間での移動をスムーズにすることも、取り組むべきテーマです。その上で、市内の事業者同士が連携して新たなチャレンジに取り組んでいく。若手の事業者が新しいビジネスに挑戦していく。多様な人材が学びながらステップアップし、これまでにないコンテンツを生み出していく。これからの柏を支える**人材を育成**していくための取り組みも、強く求めます。

新柏駅

国道6号

北柏駅

柏駅